

— 発行 —

旭川荘厚生専門学院
同窓会

岡山市祇園地先
TEL (086) 275-0145
FAX (086) 275-3283

— 編集責任者 —

同窓会会長 中尾 絹江

No.20

1997年

(平成9年)



人が人を支えて

同窓会長
中尾 絹江

阪神大震災から二年半、目覚ましい復興を遂げている一方、深い傷跡が未だ癒されていない状況を前にするたび、何もしてあげられない自分に苛立ちを感じるわたくしです。また痛ましい事故、人が人をあやめる悲しい事件が多発しておりますが、なかでも神戸の中学生という報道は誰もが信じられなかったのではないのでしょうか。

「人は一人では生きられない……」当然のことなのですが、家族、学校、町内、職場等から隔て、自分の殻を破れないで悩み、苦しんでいる人たちが増えているのではないのでしょうか。そんな方があなたの傍にいらっしゃいませんか？ 私たち同窓生殆どの方は、そのよ

うな病んでいる人達のケアを専門とされていると思います。また同窓生にも震災に遭われた方もありますが、五月関西支部会が四年ぶりに開催され、元気な明るい笑顔をお見せいただき「ホッ」としました。その彼女曰く「怖さはさることながら、頂いたおむすびが美味しかったこと、人から親切にされたことは忘れられない。」と……。

母校と会員、会員同士を繋ぐこの「同窓生だより」も一人一人の思いが集まって、編集委員がお手伝いし完成したものの、いわゆる人と人が交わってこそ伝え合うことができるのです。せめてこの「たより」が皆様の支えになればと願うものです。

一人でも多くの会員の方に目を通して、触れて頂けるよう努めてまいります。皆さんのご意見をお聞かせください。尚、住所変更の折りは、学院同窓会事務局までご一報下さいますようお願い申し上げます。

江草理事長に上海市 榮譽市民称号授与される

平成九年六月二日、旭川荘理事長であり、本学院の名譽学院院长である江草安彦先生に、上海市初の榮譽市民の称号が授与されました。江草先生は中国・上海市の医療や福祉に貢献したとして、上海市初の榮譽市民に選ばれました。



榮譽市民称号は、上海市が経済建設、社会発展および外国との友好関係を促進するため特別な貢献をした外国人を表彰するために初めて設け、日、米、独、ベルギーの計七名に贈られました。福祉分野から選ばれたのは江草先生一人だけでした。旭川荘は約十五年前から中国の研究の受入れ、平成二年から毎年「福祉の奨励中団」を組織して福祉関係者との交流、医療福祉の講演会の開催、津山市の国際車椅子駅伝大会に上海チームを招くなど、上海市の福祉文化の向上に貢献しました。江草先生は今回の訪中が二十六回目です。施設で暮らす人たちの訪中団を成々、派遣するだけでなく、上海の障害をもった方々が抱った写真展を聞くなど、上海の障害者団体と地道な草の根交流を続けておられます。

岡山支部総会報告

岡山支部長 西野 順子

同窓会の皆様お元気で、御健勝と御活躍の事と思っております。岡山支部会を元足し、早十年が来ようとしております。これもひとえに学院の先生、会員の皆

第四回同窓会 広島支部会を終えて

広島支部長 松田 憲尚

本学院をご卒業され、時が経るにつけ、それぞれの職場での専門職の質の追求やご家庭においては家人を支え子を持つ者といった責務が積み重なるものと思っております。とくに主婦という立場にあつては、家族の健康への気づかいは大変なご苦労があらうと思われま

関西支部よりの報告とあいさつ

関西支部長 吉川 千代子

日ごとに秋も深まっています。台風の影響も随分とあちらこちらで起きた状況ですが、同窓会員の皆様にはますますご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。

一九九五年の支部会は、淡路・姫路大震災の被害を会員の皆様が多数受けられ流会とさせて戴きました。震災のおりには学院よりのお見舞金ありがとうございました。

今回四年振りに、第三回関西支部会を五月二十五日(日)ホテルコンソルトにおきました。開催いたしました。第二回目より期間が空いて居たためか参加人数は二十名と少人数でしたが、久しぶりにお会いする方々の元気なお顔を拝見しながらいろいろお話しをすることができとても嬉しく楽しい一日を過ご

していることを祈りながら本部からお越した頂いた先生方をお送りいたしました。一人でも多くの方が、恩師旧友との卒期属科を越えた語らいの中でご自分の歩みを振り返る機会としての支部会になるよう、次回は広島市近郊で開催する予定です。会員住所把握において三割に満たないのが現状です。同窓生が五割以上の施設にお勤めの方は、最新の住所をぜひお知らせ下さりご協力をお願いしたいと思います。しかしながら今回、新しい顔ぶれが二名増えました。会を重ねる毎に参加して下さる方が少しずつ増えていくことを願うとともに、足をお運び下さった会員のみならず感謝いたします。次回多くの方と一緒にまたお会いできることを楽しみにしております。ありがとうございます。

すことが出来ました。議事進行する中で、役員改選も行われました。第二回目的の関西支部会では支部長に就任して戴いた、小西敦子支部長様に変更(一九九七～一九九九)吉川千代子(副支部長)守屋礼子様・木下光子様/幹事に榮浪けい子様・岡野好子様、谷本多美恵様・小西敦子様/監事に堤田善美子様・駒形なほみ様、以上の方々を承認して戴きました。尽きましては諸先輩の方々のお力や同窓生の皆様のご協力をお借りして、支部の運営に力を尽くしていきたいと考えておりますので今後とも皆様のご協力の程よろしくお願い致します。二年後の支部会には、各年度の卒業生の方、横の連絡、縦の連絡をつけて戴いて多数出席して下さることを、役員一同お待ち致しております。今後ますますの学院の発展と同窓生の皆様のお健康を心よりお祈り申し上げます。

祇園地先だより



学院長 竹本 博明

今年には六月に台風が二つも上陸したり、三つ目の十号は日本海に出たあと、また太平洋に帰ってきたりと速走夏台風もどこか異常です。各地に大雨を降らせて、当分の間は湯水の心配はなさそうですが。

同窓生の皆さんには、それぞれの場でお元気に活躍のことと拝察します。

学院の母体である社会福祉法人旭川荘は、今年創立四十周年を迎えました。昭和三十二年（一九五七年）肢体不自由児施設旭川療育園（定員五〇名）四月開設、精神薄弱児施設旭川学園（定員八〇名）五月から、乳児施設旭川乳児園（定員三〇名）を八月に開設し、開荘式が行われています。約二〇万平方メートルの河川敷を借りてその中に作られた三つの施設、石ころと草原の川原のなかで野戦病院を思いだした人もあったという時から四〇年経ち、今日では鉄筋コンクリートの四階・六階の建物を中心に多くの施設が配置された

全国屈指の総合医療福祉施設に成長しています。当時を知る人にはまさに隔世の感があるのではないでしょうか。

昭和四〇年代、旭川荘は社会の要請に応じて数々の施設づくりと入所者の受入れを進めている拡充期、そのころの社会は経済の高度成長を背景とした求人難時代であり、有能な施設職員を確保するには大変な努力が必要とされました。まだまだ障害者福祉に理解の少なかつた時代、こうした背景のもとに本学院は昭和四十六年四月、真に福祉の心を持った福祉の専門職員の養成に向けてスタートしました。

開設以来二十六年、旭川荘の理想とする「天を敬い人を愛する」人間尊重の精神を柱に、社会福祉事業に貢献することの出来る人材育成に情熱を傾け、多くの同窓の仲間を社会に送りだしてきました。また、荘内各施設の協力を頂き講師の派遣・実習生の受け入れや朝夕・休日などの

アルバイトという実習まで、他校に見られない大きな特徴として今日まで続いています。

しかし、福祉系大学の増加と十八歳人口の減少、更に大学への進学志向の強まる中で、二十一世紀に向けての社会のニーズを踏まえてこれからどう学生に魅力あるものを提供していくか、いろいろと課題を抱えている現状です。

少子化・高齢化の進むなかで、これからの福祉社会を担う専門職、社会のニーズは量もですが質も問われています。後輩たちの育成に精一杯頑張っています。後輩たちの育成に精一杯頑張っています。後輩たちの育成に精一杯頑張っています。

QUANTITYとQUALITYです。学生の量的確保と教育内容・卒業生の質的向上を目指して、教職員一丸となって取り組んでいます。皆さんの先輩たちは、良く頑張っていると思いますが、なかなか・・・のところもあります。応援してください。

学院の五号館（介護福祉科棟）の隣にデイサービスセンター教老園があります。その隣接地の埋め立てられ、新しく総合在宅支援センターの建設が始まりました。旭川荘も学院も二十一世紀に向けて確実に前進しています。

機会をみて母校を訪ねていただければ幸いです。皆様のご健勝をお祈りしています。

学院だより

入試情報

入学試験期日の決定（全学科同日）

推薦入試 十月二十六日(日)

一般一次入試 一月二十五日(日)

一般二次入試 三月一日(日)

試験場は、すべて本学院です。

（推薦のみ郡市でも実施）

○願書受付は、試験日の約一ヵ月前からです。

○入試要項・願書は学院入試事務室宛、郵便為替（千円）同封の上請求のこと。

○入試要項・願書は学院入試事務室宛、郵便為替（千円）同封の上請求のこと。

主な年間行事

★入学宣誓式（4月4日）

平成9年度の入学生は、児童福祉科四二名、介護福祉科九二名、福祉情報科一四名、福祉研究科一八名、第1看護科八三名、第2看護科五五名、総計三〇四名。

★修学旅行（9月2日～9月5日）

各科の二年生と第2看護科一年生が全員参加します。デンマーク、上海、北海道、関東、関西、四国、沖縄の7方面へ希望別に参加し、社会福祉施設や病院の見学と交流をはかっています。

★キャンパスサービス（10月14日）

児童福祉科、介護福祉科、福祉情報科、福祉研究科の各一年生が学院講堂に於いて、保護者・来賓臨席のもと、福祉の道へ進む決意を固めるものです。

★戴帽式（10月17日）

第1看護科、第2看護科の一年生

が学院講堂に於いて、保護者・来賓臨席のもと、看護婦（士）の道へ進む決意を固めるものです。

★第26回学院祭（11月7日～8日）
学院生の自主的活動によって実施する。各科・有志の研究成果や出し物を中心に、地域・施設の方々もたくさん見学に訪れます。

★卒業演奏会（2月下旬）
児童福祉科二年生の学習の総まとめとして、岡山県総合福祉会館にて開催します。

★卒業証書授与式（3月13日）
卒業予定者三〇〇余名の卒業を、多数のご来賓・ご家族の皆様を学院講堂に迎え、共に卒業生の前途を祝福します。

同窓会員数

平成9年3月現在（平成9年3月卒業生）

同窓生総数	4,599名	(341名)
保育科・児童福祉科	1,029名	(55名)
福祉科・介護福祉科	535名	(101名)
福祉研究科	35名	(21名)
福祉情報科	146名	(22名)
第1看護科	1,381名	(88名)
看護科・第2看護科	1,473名	(54名)

卒業生からのおたより

福祉情報科

情報福祉科
四期生 堤 一恵

福祉情報科、四期生の皆、皆様、こんにちは、久しぶりです。私達が学院を卒業して、早いもので二年になります。元気でお仕事頑張っていますか？私は縁あって、学院の図書館で働かせて頂きました。学生の頃は、コピー機を利用する時ぐらしか、足を運ばなかった図書館で、学生さん達に本を貸し出したり、整理をしたりと、本に囲まれて仕事をさせてもらいました。そんな中で、学生として通っていた頃をなつかしく思ったり、時には楽しかった事やつらかった事を思い、思い出しました。学生さん達が熱心に勉強している姿や、実習を頑張っている姿をみると、もっと勉強しておけば良かったとか、色々考えさせられました。が、しかし、アレもコレも、全部、皆さんとの大切な思い出。私にとって、貴重な宝物です。皆さんはどうなんですか？

介護福祉科

介護福祉科
七期生 堀 和美

皆さん、お元気でしょうか？早い

もので就職し、二年目になりました。二年目になり、ようやく学校で学んできた一つ一つの科目を、大切に自分のものにしていきたく、思うようになつた自分が居ます。一日の業務に追われる毎日で学生の頃に描いていた介護職は、充分変化してきた様に思います。

人と接する時に大切な「誠意」。自分の持っている誠意を表現や言葉に表していくこと、相手の立場に立つ。という大切な事を忘れてはいけません。皆さんは、そんな事ありませんか？

自分の中では分かっている、つい毎日の仕事の責任、他の職員に迷惑をかける様なとか、自分なりの勝手な理由で忙しさのあまり冷たくなつたりしてしまいます。私は、最近、とてもそれを強く思うのです。表面的には分かっている、実行できないでいる自分がいます。

そんな私でも、一日のうちに入所者の笑顔に出逢える事が一番嬉しいことでもあります。この仕事について一年半、確かに「やりがい」をとても感じます。忙しい毎日の中で忘れてかけている大切な事を、自分なりに探し出し、これからは頑張ります。

福祉研究科

福祉研究科
二期生 大平 幸子

病院の長期療養型病棟に就職して五カ月が経ちました。先生方や、同期生に電話をかけまくった一、二月目。新しい環境に慣れる事ができず、又、勤務十年のベテラン介護人さんの手際の良さと技身とを比べ

失望したものです。おまけに、初めての深夜勤務で心身共に疲れ果てておりました。

そんな時、ある患者さんが、「貴女は、どこか違うね。何をされているの、ちゃんと声をかけてくれる。」と言ったのでした。自信と希望を失いかけていた私にとって本心に嬉しい言葉でした。と、同時にこの仕事で一番大切な事が再認識できたのです。それは、介護の現場での主役は、患者さん、入所者の方だと言います。そして、主役の方がよりよくなつていく為に、私は、より知識と技術と自分自身を磨いていかなければならないという事です。それから何かがふつきた感じで、現在では、患者さんとチャットチャットしながらボール遊びをして頑張っています。

第一看護科

第一看護科
十四期生 山根久美子

学院を卒業し、旭川児童院に就職して、早くも四年目となりました。まだまだ未熟者の私ではありますが、現在実習指導に携わらせていただいています。私自身、緊張と不安を抱きながら実習していたことが、つい先日のことのようにですが、不手際な指導ではあります。実習生の気持ちに近づき、共に勉強しながら、のびのびと実習できるような雰囲気作りを心掛けています。そして、その中で、一つでも多くのことを感じ、心の中に何か残るものがあれば願っています。

業務に負われる毎日で、なかなか心ゆとりを持たず、自分の理想としている看護婦になるには、まだ、ほど遠いと感じています。一人一人多種多様の障害をかかえながらも、一生懸命に生きている姿や笑顔と

明るさが、いつも心の支えとなっています。今後とも、入所者を一人のかけがえのない人として尊重するということの基本のもとに、誠意を持って援助していきたいと思っています。

第二看護科

第二看護科
八期生 奥江 操子

同窓会員の皆さん今日は。今年の夏は比較的波がややすく、夏バテもなく元気に秋を迎える事ができました。皆さんはいかがお過ごしですか？

第二看護科八期生として卒業してから、十八年。高校を卒業したばかりの若い方と机を並べると戸惑いを感じながら過ごした二年間を懐かしく思い出しながら、この原稿を書いています。卒業後の同窓会でお目にかかった方はごく一部の方で、そのほかの方はどうなさっているのかなと思っています。当時十代だったあの方も、二十代だったあの方も、私と同じように十八歳大きくなられたのだと思うと、不思議な感じがします。第六回目の同窓会が来年早々にあると聞いています。多くの方に会える事を楽しみにしております。さて私の近況ですが、平成六年から保健福祉局福祉部福祉総務課に配属になり、看護職の立場で、福祉業務に携わっています。仕事の内容は、どちらかといえば事務作業が中心で、白衣を着る事はなく、デスクワークからくるストレスから肩が凝ることもあります。

高齢者といわれる年齢に到達するのにはわずかに十二年。高齢者の生活環境が、介護保険制度によってどこまで保障されるのか、見極めが必要と感じて居ます。

プライベートでは、先日、七月の末から一週間（五泊六日）初めての海外旅行を体験しました。行き先は、海外旅行初心者向けのシンガポール。搭乗手続き、出入国手続きと初めての事はばかり。通貨の交換もドキドキ気分です。

同行者は娘。今までの母子旅行は、私がリーダーシップを取っていたのですが、今回は逆転。すべて娘に任せ、後ろをついて行くという状況でした。予定のない所に行きたい時には、少々遠慮がちにお願いするという場面もあり、娘に気を使っていました。日本人が多いので、英語が分からなくても大丈夫と友人から聞いていたのでその気でしたが、外国人に日本語で質問する事に抵抗感があり、聞きたい事も聞けないという状況でした。娘は、英会話教室での成果を試すのだと張り切っており、英会話教本を片手に、楽しそうに会話をしていました。どの程度通じているのか定かではありませんが、本人は満足そうでした。

帰途、「とても楽しかった。また来年行こうな」と私。「お母さん、今度海外旅行する時は、友達と行ったら。私はもう遠慮するわ」と娘。初めてで最後の海外旅行と言う事で始まった今回の旅行ですが、ほとぼりがさめた頃、次回の計画を持ち出そうと密かに考えているところです。こうして今年のパカンスは終わりました。また忙しい毎日が始まります。五十歳代を大いに楽しみたいと思っている今日この頃ですが、忙しさをバネに楽しみを何倍にもできたらと思っています。

最後に、同窓会で再会できる事を楽しみにしています。

各科の現状

児童福祉科

福祉に強い、保母をめざして
昭和四十六年保育科として産声をあげた児童福祉科も、はや二十七年生を迎えています。

時の流れと共に社会情勢も大きく様変わりし、子どもを取り巻く環境の著しい変化の中で、今、そして今後の子育て問題がクローズアップされています。多様化する保育ニーズに対応するため「エンゼルプラン」が策定され「緊急保育対策五か年事業」に基づきいろいろな事業もすすめられています。また、平成十年四月から児童福祉法の一部改正が実施されていますが、これを基盤として今後児童福祉科の向上へ向け検討されることと思えます。

こうした情勢に対応していくために、保母には今迄にも増して幅広い知識や技術など専門職としての高い資質が求められます。

本院の児童福祉科でも、平成八年三月の卒業生から保母資格と共に、福祉レクリエーションワーカーと身体障害者スポーツ指導の資格をもった学生を職場に送り出しており、福祉に強い保母養成に努めています。

同窓生の皆様には、実習、就職先で懇切丁寧な指導をいただき感謝しております。今後とも後輩の育成のためによろしくご指導の程お願いいたします。

尾坂 紀子

福祉情報科

格定試験の合格をめざして

福祉情報科は、医療と福祉の総合学科として、学院の四番目の科として平成二年に開設されました。今日では、あらゆる職場や職種でコンピュー

タなどの情報処理機器に関する知識と技術が必要とされています。同時に、医療・福祉の現場では、これらの情報処理の知識と技術とともに、介護技術と医療知識を兼ね備えた人材が必要とされています。そこで、このような医療・福祉のニーズに応えられる人材、つまり、一人でいろいろな業務をこなすことができるユニバーソレイヤーとして、医療・福祉現場から福祉情報科の学生に対する期待が増えています。そこで、福祉情報科では、最新鋭の情報処理機器を導入し、科の開設以来、個別指導のもとに情報処理検定試験の合格を目指しています。また、秘書技能検定では当初から秘書実務士の資格取得の教育認定を受けています。医療関係の資格も、医療秘書技能検定の他、医事管理士の教育指定校としての認定も受けています。卒業生の就職では、女子学生にとってはたいへんな就職難の時代にもかかわらず、先輩学生の努力で、医療・福祉の現場で多くの学生が頑張っています。今後、福祉情報科の特徴を活かした教育内容の充実をはかり、福祉情報科の伝統を教員と学生全員で築いていくように努めたいと思っております。

松本 定

介護福祉科・福祉研究科

二十一世紀の介護を担う

介護福祉科(二年コース)
福祉研究科(一年コース)

介護福祉士を養成する学校は全国で二百五十四校あるなかで、日本介護福祉士養成施設協会(介護協)の会長校(江草安彦旭川在理事長が協会の会長)として、全国から注目を集めている介護福祉科に現在一年生九十三名、二年生百二名の学生が在

籍し、勉学に励んでいる。

介護福祉の専門教育のための教育として、一年生には介護福祉士資格取得の基礎科目(介護技術、医学一般、社会福祉概論など)を中心に授業を行っている。さらに社会福祉施設が実際に抱える問題点や施設利用者の実態を学ぶために、旭川在内の施設で第一段階の介護実習を夏期休暇を挟み実施し、確実に成長し帰って来ている。二年生については、介護技術の最終仕上げを目標に第二段階の実習を六月から七月までの六週間、岡山県内全域の施設で実施し、確実に実力をつけてきている(第三段階の実習は十月から十一月の六週間を予定している)。

福祉研究科は保母資格をもっている十八名の学生が在籍し、一年で介護福祉士の資格取得を目指している。実習については、五月に基礎実習I(基礎実習IIは十一月を予定)を四週間行い、保母資格のための実習とは内容の異なる介護実習で、ケアプランなどの作成のための視点も付加され、福祉の専門家を目指し、充実した学院生活を送っている。

介護福祉士養成の二学科ともに、これから秋に向かって、実習および学習の成果の総決算として、ケアプランなど実習中の事例についてまとめ、卒業研究発表の場が用意されている。さらに介護福祉士養成のための専門的基礎知識を身につけることを目的とした卒業試験が行われる予定である。

松本 好生

第一看護科

信頼される心豊かな看護婦を

第一看護科は、今春入学した一年生が第二学期となりました。社会の変化や医療の高度化に伴い医療・福祉への要望はますます高まりつつあります。看護婦に求められる期待も多様化し、知識と技術だけでなく、広く豊かな人間性が要求されています。

す。本校の教育内容においても、新しく在宅看護論や人間関係論を科目に取り入れ、講義や実習の形態も大きく変わってきています。

第一看護科では、入学して間もなく旭川在内の福祉施設での実習を行います。学生は、入学初期に障害者の方々との出会いをおとし、健康とかクオリティオブライフについて考え、看護の学習をより深めるための動機づけの機会となっています。また、学生は三年間の間にさまざまな健康ニーズをもつ人々に接し、「看護とは何か」と日々新たな気持ちで取り組んでいます。私たちもまた、学生が基礎的な知識・技術をしっかりと身につけ、誰からも信頼される看護婦をめざして励むことを願い、教育活動に精進しています。

第一看護科の学生の約半数は県外出身者です。卒業生の多くは、西日本各県を中心に全国各地で、看護婦としてその力を発揮しておられます。今後は就職も厳しい状況が予測されます。私たちは、看護婦への夢をもつて入学してきた学生たちが、これからも卒業生の皆様方の後に続くようにと願っています。

江口 瞳

第二看護科

伝統を受け継いで二十七年

現在の第二看護科は、昭和四十六年の開学と同時に看護科として発足し、昭和五十三年の第一看護科の新設により第二看護科と名称を改めました。以来二十五期生まで、全国で活躍する卒業生の数は千四百七十三名にのぼっています。

今年度入学の二十七期生は五十六名、二年生は五十四名で年齢も十八歳から四十歳代後半の方まで、バラエティに富んだ学生同窓がお互いに刺激あつて学習に励んでいます。しかしながら、急激な医療の進歩や高齢化、少子化など、めまぐるしく

く変化する社会の保健医療に対応すべく看護の質が求められるようになり、看護系大学・短期大学化の動きが急速に進んでいます。このような情勢のなかで看護婦養成制度の問題点が指摘され、厚生省では二十一世紀初頭をめどに看護婦養成制度を廃止する方向で検討されて、今後の動向が注目されています。

こうした現状のなか、第二看護科への入学希望者は確実な目標をもって受験し、看護課程で学び感じたことを大切にしながら学習を積み上げていきます。年々、国家試験の合格率も厳しくなってきましたが、学生の努力で全国平均を上まわっています。それぞれ大きな役割をもって活躍されている先輩方を、心強く感じ、残っていたらだいた伝承を受け継ぎながら、これからは誇りをもって卒業できるように支援を続けていきたいと思っております。

羽井佐米子

人事異動

退任の先生(三月三十一日)

- 児童福祉科長 豊山 大和
- 庶務主任 藤原 義文
- 顧問 (理事長事務室へ) 中村 年延
- (旭川在顧問へ) 顧 問

新任の先生

- 副学院長、入試事務室長 国塩 輝昭
- 児童福祉科 別惣 淳二
- 看護科 山田 初美

編集後記

初秋の候、同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。

学院では、例年行っております戴帽式、キャンドルサービスも盛会に行われました。教育環境の改善も次々と進められています。一度学院においで下さい。

同窓会